

ショパンのワルシャワ



Warsaw

go2warsaw.pl



フレデリック・ショパンはどんな人?

「生まれはワルシャワ人、心はポーランド人、
そしてその才能は世界市民である」

ツィプリアン・カミル・ノルヴィド



フレデリック・ショパンは1810年にジェラソヴァ・ヴォアで生まれました。彼の誕生日は3月1日とされていますが洗礼記録では2月22日になっています。そして生後数か月で家族とワルシャワに移りそこで彼は成長し音楽の才能を伸ばしました。その後もショパン家は常にクラコフスキェ・プシエドミエシチェ通り沿いで何度も住み替え、現在それらの場所ではワルシャワの文化活動が盛んに行われています。

フレデリックはピアノ・フルート・バイオリンなど常に歌声や様々な楽器の演奏が流れている家庭で育ちました。このことから彼が幼い頃に初めて音を弾き始めたことは不思議ではありませんでした。また幼いながらも彼はワルシャワの貴族のサロンで称賛されていました。首都ワルシャワの新聞各紙も8歳の誕生日を迎える前に初めて作曲した少年を絶賛しました

フレデリックは自宅学習期間を経てワルシャワ高等学校に通い始めました。そこでは幅広い知識を得るだけでなく生涯大切にしたい友情も育みしました

1830年にワルシャワ中央音楽学校を卒業した後フレデリックはウィーンに行きそこで11月蜂起の勃発を知りました。彼は愛する故郷をととても恋しがりましたが家族は彼に帰国しないよう説得しました。その後フレデリックはパリへ出発しフランスの首都で直ぐに最も著名な人物の一人になりました。彼がどれほど人気があったかポーランドのヴァイオリニストで作曲家だったアントニ・オルウォフスキの言葉からもわかります。「フランス人女性全員が彼に夢中になり男性はジェラシーを感じている。今まさにブームで世界はまもなくショパン風手袋を目にするだろう。」

ショパンは最期までパリに住んでいました。彼は39歳で亡くなりましたが原因はおそらく結核でした。そして彼はペール・ラシェーズ墓地に埋葬されました。しかしショパンの心臓は彼の遺言通り姉ルドヴィカによってワルシャワに運ばれました

フレデリック・ショパンの人生における大きな出来事

1810年2月22日または3月1日 - ジェラソヴァ・ヴォラでフレデリック・ショパンが生まれる

1825 - 聖三位一体福音教会で皇帝アレクサンドル1世のために演奏する

1816 - ピアノレッスンを始める

1826 - 中央音楽学校で勉強を始める

1810年秋 - 家族とワルシャワへ移住

1823 - ワルシャワ高等学校で学び始める

1829 - 作曲家としてのキャリアを始める

1831 - パリへ移住

1848 - ロンドンでショパンが公開したラストコンサート

1850 - ショパンの心臓が姉ルドヴィカによってワルシャワへ運ばれる

1830 - ウィーンへ出発

1836 - 結核にかかる

1949年10月17日 - パリで永眠

1880 - 聖十字架教会に心臓を祀る

ショパンのベンチ



ご存知ですか？



ワルシャワの王の道沿いの数か所にフレデリック・ショパンの曲をより身近に楽しめるマルチメディアベンチがあります。ベンチにあるボタンを押してショパンの最も有名な作品マズルカ・ワルツ・バラード・夜想曲（ノクターン）をお聴きください。

ワジェンキ公園にあるフレデリック・ショパンの像

(Pomnik Fryderyka Chopina w Łazienkach Królewskich)



「軍隊ポロネーズ」 ポロネーズ第3番イ長調作品40-1

フレデリック・ショパンは“いつかワルシャワにショパンの像ができそれが首都ワルシャワのメインシンボルの一つになる”と思っていたでしょう。ヴァツワフ・シマノフスキ作のこの巨大な像はショパンの生誕100周年を祝うためにデザインされました。この像はポーランド最後の王スタニスワフ・アウグストの夏の離宮の広大な庭園に囲まれた王立ワジェンキ公園で 1926 年に除幕式が行われました

そして50 年以上にわたりこの像のもとでショパン コンサートが開催されており市民と観光客から絶大な人気を集めています。5月から9月まで毎週日曜日の12時と16時に著名なピアニストによるコンサートが開催されています

詳細は次のサイトをご覧ください

estrada.com.pl/koncertychopinowskie

・ Ujazdowskie 大道りから入場,

www.lazienki-krolewskie.pl

フレデリック・ショパン博物館

(Muzeum Fryderyka Chopina)



バラード第4番へ短調作品52

フレデリック・ショパン博物館は歴史的なオストログスキ宮殿にあります。ここに収集された展示品やマルチメディアでショパンの人生と作品について知ることができます。ワルシャワで過ごした幼少期から青年時代をそして彼の亡命生活についてすべて知ることができます。展示品の中には値のつけられないプレイエルピアノ、10歳の音楽家にその才能が認められて贈られた金時計、彼宛てに書かれた手紙や彼が送った手紙、彼の絵や手紙と作曲された自筆の楽譜などがあります。また博物館ではショパンの音楽を堪能できるリサイタルやコンサートを開催しています

・ Okolnik通り1,
muzeum.nifc.pl



聖十字架教会

(Kościół Św. Krzyża)



「葬送」ピアノソナタ第2番変ロ短調作品35

19世紀初頭のワルシャワ最大のカトリック教会の中をご覧ください。ショパン家の歴史における多くの重要な出来事がこの教会で行われています。例えばフレデリックの妹イザベラとエミリアの洗礼式もここで行われました。そしてショパンの遺言に従い姉ルドヴィカは彼の心臓をワルシャワに運びこの教会の柱に祀られました

・ Krakowskie Przedmiescie通り3



ご存知ですか？

ショパンは彼の亡骸をポーランドに戻すことを希望していましたが当時の政治情勢によりそれはできませんでした。しかし親族の尽力のおかげでショパンの心臓は検死の際に摘出され密閉された瓶に入れられアルコールで保存され姉ルドヴィカによってフランスから運ばれました。そしてショパンの死後96年を経てその亡骸もようやく聖十字架教会に埋葬されました

ザモイスキ宮殿

(Palac Zamoyskich)



「革命のエチュード」練習曲第12番ハ短調作品10-12

この建物はショパンの妹イザベラのアパートにあったショパンのピアノの運命に関係があります。1863年にこの宮殿の近くで皇帝の知事テオドル・ベルクに対する暗殺未遂事件がありました。ロシア軍はこの報復としてこの建物を略奪しショパンのピアノを窓から通りに投げ捨てたのです。この出来事はポーランドの詩人ツィプリアン・カミル・ノルヴィドの詩「ショパンのピアノ」に書かれています。現在宮殿にはワルシャワ大学の教室があります

• [Nowy Swiat通り67/69](#)

カジミェジョフスキ宮殿

(Palac Kazimierzowski)



ワルツ第14番ホ短調（遺作）

バロック建築と古典主義建築が組み合わされた17世紀の宮殿をご覧ください（ワルシャワ大学の敷地内の図書館の裏にあります）。ショパンは家族とこの宮殿の2階の右側にあるアパートに住んでいました。また若いショパンは宮殿に隣接する植物園でよく遊び本を読んでいた座っていました。この宮殿には若きショパンが通ったワルシャワ高等学校もありました

• [Krakowskie Przedmiescie通り26/28](#)

ご存知ですか？

ショパンは子供の頃から並外れた才能を発揮していました。彼は8歳になる前に作曲を試み「神童」と呼ばれました。彼の最初のピアノ教師ヴォイチェフ・ジヴニはフレデリックの能力が彼の指導能力を超えていると述べ教え始めてから6年後にフレデリックのピアノの勉強を中止しました

チャプスキ宮殿

(Pałac Czapskich)



「小犬のワルツ」ワルツ第6番変ニ長調作品64-1

この宮殿には1827年にショパンと家族が移り住んだアパートがありました。ワルシャワのエリートたちはここで会合し芸術家や科学者や若者たちも訪れオーケストラの演奏者とのリハーサルもここで行われていました。フレデリックは1830年に国を永久に離れるまでここに住んでいたのです。ここで彼はワルシャワ時代の彼の最も重要な作品とされる2つの協奏曲を作曲しました

• [Krakowskie Przedmiescie](#)通り5

ビジトカ教会

(Kościół Wizytek)

若きショパンは通っていたワルシャワ高等学校の生徒のためのミサでこの教会のオルガンを何度も演奏しました。17世紀のこの教会は第二次世界大戦で破壊されずに残り今でもオリジナルの装飾のほぼ全てを保っています。教会内部の最も興味深いものの1つである船形のバロック様式の説教壇に注目してください

• [Krakowskie Przedmiescie](#)通り34



「神よ、ポーランドをお守りください」ラルゴ変ホ長調（遺作）

ご存知ですか？

若きショパンはビジトカ教会の礼拝中にソロで歌っていた初恋の人コンスタンツィア・グワドコフスカに会いました。ショパンとコンスタンツィアは心が通じ合っていました。ショパンは後にラルゲットのピアノ協奏曲第2番へ短調を彼女に捧げました

大統領官邸

(Pałac Prezydencki)

ショパンの時代にこの宮殿はロシア皇帝の総督の所在地でした。8歳のフレデリック・ショパンはここで初めて演奏を公開しました。これは大きな話題になり首都ワルシャワの新聞の関心を集めました。1918年にポーランドが独立を回復した後この宮殿では首相と政府が執務を行い1994年からはポーランドの大統領官邸となりました

• [Krakowskie Przedmiescie](#) 通り46/48



ロンドハ短調作品1

ヴェッセル宮殿

(Pałac Wesslów)

1830年にこの場所からフレデリック・ショパンは友人たちに別れを告げワルシャワを永久に去りウィーンへの旅を始めました。当時この宮殿はザクセン郵便局と郵便厩舎として使われていました

• [Krakowskie Przedmiescie](#) 通り25



「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」変ホ長調作品22

ピウスツキ広場とサスキ宮殿の庭園

(Plac Piłsudskiego i Ogród Saski)



🎵 マズルカ第5番変ロ長調作品7 🎵 夜想曲（ノクターン）第3番ロ長調作品9

1817年までサスキ宮殿にはワルシャワ高等学校があり幼いショパンの父ミコワイはそこでフランス語教師として働き職員用アパートも利用していました。残念ながらこの宮殿は現存しておらず第二次世界大戦中に破壊されました。宮殿で唯一残り保存されているのは無名戦士の墓のある列柱部分です。現在は宮殿を再建し1939年の外観を復元する作業が進行中です。でもサスキ庭園を訪れて200年前に幼いショパンが走りまわっていた路地を散策することはできます

• [pl. Marszałka Józefa Piłsudskiego](#)

聖三位一体福音ルーテル教会

(Kościół Ewangelicko-Augsburski Świętej Trójcy)



1825年に15歳のフレデリック・ショパンによるコンサートがアウグスブルク福音教会で開かれました。彼はその功績により皇帝アレクサンドル1世からダイヤモンドの指輪を贈られました。18世紀の古典主義様式のこの教会は展望台や監視塔としても機能していました

• [Stanisława Malachowskiego広場1](#)

ご存知ですか？

幼いショパンが受け取ったもう一つの貴重な贈り物は「1820年1月3日 - 10歳のフレデリックへ」と刻まれた金の懐中時計でした。それは彼の才能に感激した偉大な歌手アンジェリカ・カタラーニから贈られたものでした。現在この時計はワルシャワのフレデリック・ショパン博物館で見ることができます



ジェラゾヴァ・ヴォラのフレデリック・ショパンの生家

(Dom Urodzenia Fryderyka Chopina)

1810年にフレデリック・ショパンがここで生まれました。しかし生後まもないショパンはその数か月後に家族でワルシャワに移りました。でもショパンはこの生家に強い愛着を感じていて休暇や休日在这里で過ごすことが多かったのです。5月から9月まで毎週土曜日と日曜日の12時と15時にショパンのリサイタルが開かれ、平日は10～11時まで「15分ミュージカル」のミニコンサートを聴くことができます

- Zelazowa Wola 15、96-503 Sochaczew
(ワルシャワから約50km) , muzeum.nifc.pl



ご存知ですか？

ショパンの生年月日はまだ確定していません。その情報源には食い違う2つのデータがあります。ブロフフの教会の洗礼記録には1810年2月22日と記されていますが3月1日の可能性が高いです。なぜならその日に母親がフレデリックの誕生を祝ったからです。しかしそれが実際どのようなものであったかは決してわかりません

ブロフフの洗礼者ヨハネと聖ロフ教会

(Kościół p.w. św. Jana Chrzciciela i św. Rocha w Brochowie)

ショパンの両親のミコワイ・ショパンとユスティナ・クシャノフスカはブロフフの教会で結婚式を挙げました。幼いショパンの洗礼式も1810年4月23日にここで行われました。四隅に稜堡を備え壁に囲まれたこの教会は防御を目的としたルネサンス時代の宗教建築として貴重なものの1つです

- Brochów 70,
05-088 Brochów
(ワルシャワから約60km)
www.brochow-parafia.pl



フェスティバルとコンサート

・ 王立ワジェンキ公園でのショパン・コンサート

50 年以上にわたりワジェンキ公園のフレデリック・ショパンの像のもとでショパン野外コンサートが開催されています。5月中旬から9月末まで毎日曜日の12時と16時に著名なピアニストによる演奏会が開催されています。これは市民や観光客にも人気があり木陰に敷いたブランケットに座りながらクラシック音楽を聴ける特別な機会です

場所:王立ワジェンキ公園

・ 「ショパンとそのヨーロッパ」 フェスティバル

クラシック音楽と現代音楽のファンにとって魅力的なフェスティバルです。2005年からワルシャワでフレデリック・ショパン国立研究所が主催するこのフェスティバルは毎回異なるテーマで開催されています。このイベントにはポーランドおよび世界中から優れたアーティストが参加しています

場所: 国立フィルハーモニー、聖十字架教会、ポーランド国立ラジオ放送局のW. ルトスワフスキ・コンサートスタジオ

・ ショパン国際ピアノコンクール

1927 年から5 年ごとに世界中の才能溢れるピアニストがワルシャワに集まりこのショパン国際ピアノコンクールで競い合います。この素晴らしいコンクールの創始者はこの偉大な作曲家の音楽の普及を願っていた優れたピアニストで教師だったイエジー・ジュラヴレフでした。コンクールの知名度と優勝者による世界的なキャリアがこのコンクールへの揺るぎない関心を集めています

場所: 国立フィルハーモニー

・ 毎日開催されるリサイタル

ワルシャワに来ればいつでもフレデリック・ショパンの音楽を聴くことができます。ワルシャワの中心部には才能あるポーランド人や外国人のピアニストのリサイタルを毎日開催する場所が多くあります。

詳細は次のサイトをご覧ください

go2warsaw.pl



**Warsaw
Tourism
Office**

www.go2warsaw.pl
info@go2warsaw.pl



/go2warsaw

写真: 表紙: ワジェンキ公園にあるフレデリック・ショパンの像 / Ł. Kopec © City of Warsaw; フレデリック・ショパンのアーカイブ写真: マクシミリアン・ファヤンス、アリ・シェッフアーによるリトグラフ、19世紀、写真 / © フレデリック・ショパン博物館; ショパンのベンチ / © City of Warsaw; 王立ワジェンキ公園でのショパン・コンサート / © City of Warsaw; フレデリック・ショパン博物館 / F. Kwiatkowski © City of Warsaw; プレイエルピアノ / I. Gmyrek © City of Warsaw; 聖十字架教会 / © Verdical-Fotolia; ショパンの銘板 / Ł. Kopec © City of Warsaw; ザモイスキ宮殿 / F. Kwiatkowski © City of Warsaw; カジミエジヨフスキ宮殿 / W. Hansen © City of Warsaw; チャプスキ宮殿 / © City of Warsaw; ビジトカ教会 / T. Nowak © City of Warsaw; 大統領官邸、ヴェッセル宮殿 / © City of Warsaw; ピウスツキ広場とサスキ宮殿の庭園 / F. Kwiatkowski © City of Warsaw; 聖三位一体福音ルーテル教会 / Ł. Kopec © City of Warsaw; ショパンの金時計 / © フレデリック・ショパン博物館; ジェラゾヴァ・ヴォラのフレデリック・ショパンの生家 / M. Czechowicz © Fryderyk Chopin Institute; ブロフフの洗礼者ヨハネと聖口フ教会 / M. Jaszowski, fullframe.

発行元: ワルシャワ観光局・Warsaw Tourism Office
ワルシャワ2025